

大腸がん検診を受ける方へ

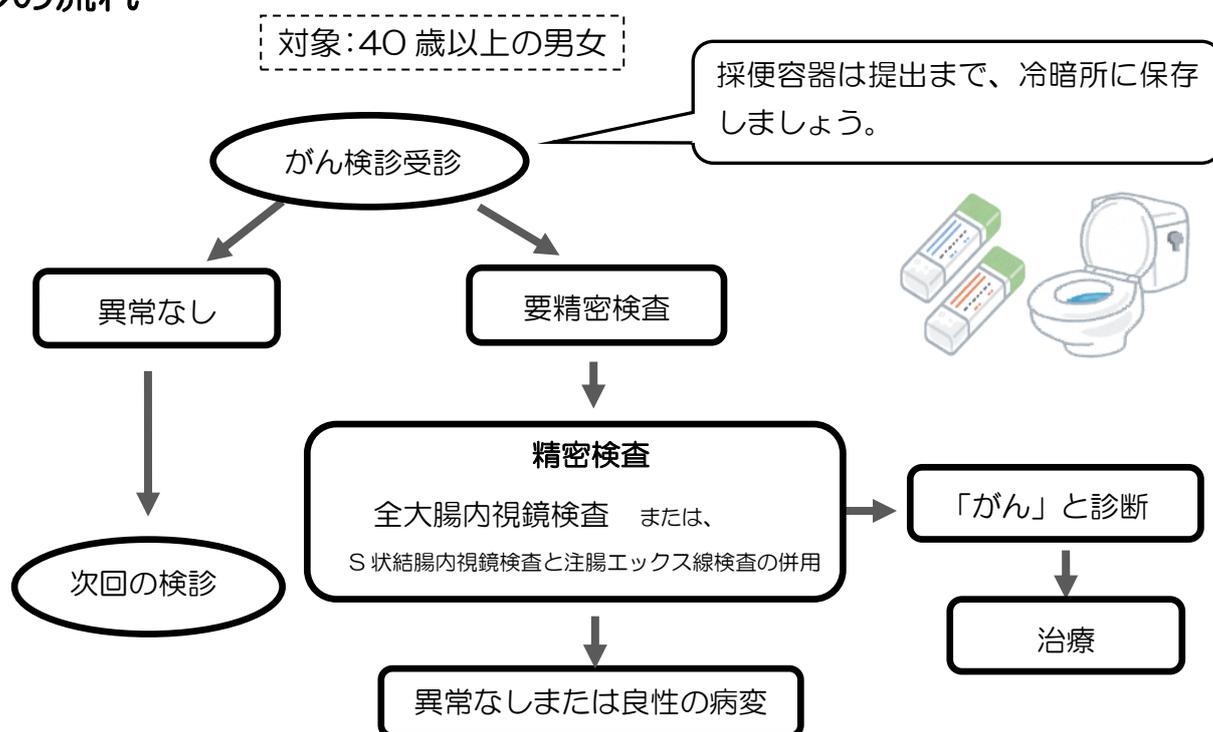
◎便潜血反応免疫法

採便容器に2日分の便を採取して、その中に含まれる目に見えない血液の有無を調べます。

※生理中や、痔による出血の可能性がある場合は検査を延期してください。

※大腸がん検診で必ずがんを発見できるわけではありません。がんがあっても異常なしと判定されること（偽陰性）や、がんがなくても精密検査が必要となること（偽陽性）があります。

◎検診の流れ



◎精密検査について

便潜血検査の結果が「要精密検査」となった場合は、必ず精密検査を受けてください。

大腸内視鏡検査は、肛門から内視鏡を挿入し、大腸の状態を観察する検査です。その際、病変の一部をつまみとる（生検）ことがあります。

なお、便潜血検査の再検査は行わないで下さい。「異常なし」となっても、がんがないとは言えません。

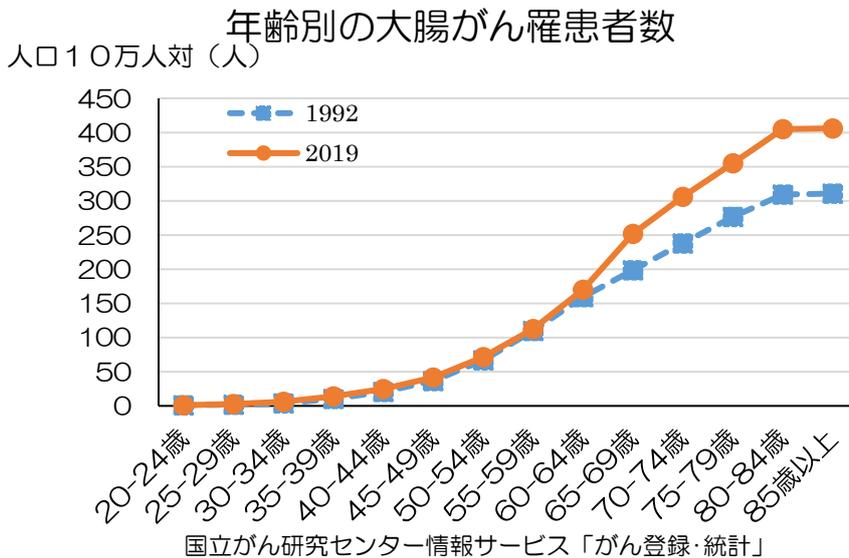
◎結果の通知について

検診結果は、約1か月後に郵送いたします。精密検査が必要な場合は、保健センターにて、精密検査依頼書をお渡しします。

裏面もご覧ください

増えている大腸がん

大腸がんの患者数は、近年増加しており、がん死亡においても女性（1位）・男性（3位）ともに上位を占めています。大腸がん検診（便潜血検査）によって早期に大腸がんが発見されることで、大腸がんによる死亡率が減少することが明らかになっています。



大腸がんにかかる人は40代から増え始めます。
早期に見つけて治療すれば95%以上の人が治るといわれています。

検診の精度を保つために

効果的で精度の高い検診を実施するためには、みなさまの検診結果を正確に把握する必要があり、ご本人や精密検査医療機関に検診結果の追跡調査を行う場合があります。検診結果は市で集計した後、国に報告し、有効性の評価などに用いられます。

また、一次検診および精密検査に関する個人情報については、市民の健康向上を目的に、一次検診実施機関、精密検査実施機関と共有し、事後指導、受診勧奨などに使用することがあります。その際には、個人情報保護法等を遵守し、適正・厳格な取り扱いを行います。

1年度に1回は検診を受けましょう！

大腸がん検診の受診間隔は1年度に1回です。前回の検診で「異常なし」であっても、時間の経過とともに、新たながんができることがあります。毎年定期的に検診を受けましょう。ただし、血便や腹痛、繰り返す下痢、便秘など異常な症状があれば次の検診まで待たず、すぐに専門医を受診しましょう

四條畷市立保健センター (☎) 072-877-1231